

調べてみよう!
浜松市&静岡市

両市にまたがる 戦国ドラマの舞台

いよいよ始まった大河ドラマ「おんな城主 直虎」。舞台の中心は「井の国」とよばれた浜松市の井伊谷という奥浜名湖エリア。およそ1,000年の歴史を持つ井伊家が代々領主として栄えてきた土地でした。ドラマの時代では、駿河を本拠地としていた大名・今川氏の支配下にあり、また、西の織田信長、北の武田信玄に囲まれた過酷な環境にありました。井伊家は、常に今川氏の監視下に置かれ翻弄され続け、男たちは謀殺されたり、戦死したりして消えてきました。ところが、歴史的大逆転劇、今川氏が敗れる「桶狭間の戦い」が井伊家に転機をもたらし女城主井伊直虎の誕生へとつながっていきます。また、徳川家康もこの今川氏には大きく関わっています。幼少時代には人質になって駿河で過ごしたり、政略結婚させられたりしています。そして、直虎も家康公と関わり井伊家を救います。駿河（静岡エリア）と遠江（浜松エリア）がどう関わり、展開されるのか、お楽しみください。



「浜松市と静岡市はライバル」 なんて誰が言ったの？

「静岡市のほうがおしゃれだ」「浜松市には世界的企業がいくつもある」などの話題を時々耳にし、両市がライバル関係にあるような風潮を感じますが、実はとても仲がいいという事例を紹介しましょう。両市長が年に1度、首脳会合（G2）を開いています。静岡県の政令指定都市として共通する課題について意見交換し、解決に向けた連携・協力を進め、地域経済の活性やよりよい県土づくりを目指すため、平成20年度からスタート。昨年は14回目の会議が開催されました。同様に、浜松市と静岡市の区長会議も定期的に行っています。この区長会議は平成23年に浜松市中区と静岡市葵区の2区で始まり、平成27年度からは全ての区長が参加し、お互いの施策について意見交換しながら、交流を深めています。



平成28年第14回浜松市・静岡市首脳会合（G2）
鈴木康友浜松市長（左）田辺信宏静岡市長（右）

今川焼きは今川氏とどんな関係？

今川義元をモデルにした静岡のご当地キャラ「今川さん」

今川焼きは、江戸の庶民的な焼き菓子。神田の今川橋あたりで売られたのが始まりとされます。残念ながら直接関係はありませんが、織田信長と今川義元の「桶狭間の戦い」をもじって『たちまち焼ける今川焼き』というキャッチフレーズで大繁盛したといいます。回転焼き、大判焼き、太鼓焼きと、日本各地で呼び名はいろいろ。たい焼きの原点ともいわれます。家康と直虎にまつわる今川の名がついたお菓子、あなたの地域では何と呼ばれてていますか？



「やらまいか」が宿る 静岡の名建築



米軍の爆撃後の浜松市中心地、多くの市民が犠牲となった



旧遠州銀行本店（現：静岡銀行浜松営業部）
浜松市指定文化財



静岡市役所本館 スペイン風のデザインで青いドームが特徴的。国の登録有形文化財

静岡市を象徴する歴史的建築物が浜松市出身の建築家によって設計されたことはあまり知られていません。第二次世界大戦中、米軍による空襲の標的となった浜松市は、浜松大空襲（昭和20年）で壊滅的な被害を受けました。浜松市街地の焼け野原の写真①には数少ない建物が残ります。そのひとつが「旧遠州銀行本店（現：静岡銀行浜松営業部）②」です。現在も機能するこの建物の設計者は、浜松市出身の建築家、中村與資平（なかむらよしひ）です。彼は、浜松第一中学校（現：静岡県立浜松北高等学校）、東京帝国大学工科大学（現：東京大学）を卒業後、東京駅を設計した日本建築界の重鎮、辰野金吾に師事。中村の建築は、世界各地のさまざまな時代の様式を取り入れ、多様な表現が多いのが特徴で、人々に永く使われることを理念とし数多くの名建築を残しています。実は「静岡市役所本館③」「静岡県庁本館」も彼の作品。中村の「やらまいか」は静岡市を象徴する歴史的建造物の中に今も息づき、両市をつないでいます。

似ているけど、ちょっと違う、だけど、どこかで何かでつながってる。
もっと、もっとつながって、ともに元気なまちを創っていこう。

だもん
コラム
その3

海より深い？ 2市の関係

静岡市にあって浜松市にない大きいもの——銀行の本店、県庁……いや、もっと大きいもの、それは「開港」です。清水港は外国船が行き来できる港。実は、浜松と深い関係にあります。戦後、大きな港を持たない県西部地域の工業製品の輸出増加と国際開運のコンテナ化に対応するため、東名高速道路浜松インターチェンジに隣接して、日本で初めての内陸の国際貿易港「静岡県浜松内陸コンテナ基地」が誕生しました。県西部地域で生産された輸送機器などの工業製品が、コンテナ基地から清水港などを経由して世界各地に輸出されています。「浜松に開港はない」は正解とは言えませんね。



浜松市と静岡市をつなぐもの